

城南新報 2013年5月28日の記事より

“おひさま発電”つくろう 自然エネルギーに興味津々 城陽市立久世保育園

社会福祉法人清仁福祉会が運営委託を受けている市立久世保育園(松岡和子園長、173人)＝城陽市久世芝ヶ原＝で26日、「おひさま発電をつくろう」の集いが開催された。園内には在園児をはじめ保護者、卒園児、OB、地域住民らが数多く来園し、自然エネルギーについて知識を深めた。



今回の「おひさまプロジェクト」は、NPO法人・きょうとグリーンファンドの協力のもと、各関係機関などの理解を得ながら同園に太陽光発電を設置する事業。すでに府内16カ所で整備されており、同福祉会直営の清仁、清心両保育園＝いずれも同市富野＝でも設置済み。

生活リズムを大切にしながら自然の中で、園児らが思いっきり遊ぶことで、一人ひとりに計画性や工夫する力が養われる—を基本に、園児たちに生きる力を身につけてもらうことに重点を置いた保育を展開している久世保育園。そこで自然エネルギーについて園児たちに興味・関心を持ってもらえるように—との願いを込めて、昨年秋ごろから太陽光発電システム設置事業をスタートさせた。

この取り組みを広く知ってもらうことを目的に開いたこの日の催しでは、宮園昌美・久世校区自治会連合会長が喜びの挨拶。そのあと、ホール内で園児たちが歌「どろんこと太陽」「小さな世界」を響かせ、松岡園長が「おひさま発電」について園側の思いが説明された。NPO法人・きょうとグリーンファンドの大西啓子理事・事務局長の紹介に続き、同園OBの津留康守さんが「水道の水や電気、ガスを大切にすることは一番大事ですよ」と、園児たちに呼びかけた。

パネルを使って太陽光発電に関する説明を受けたあと、紙芝居も楽しんだ園児たちは、園庭に出て「食べ物」コーナーでは焼きおにぎりや具だくさん汁を味わい、「おひさま発電」コーナーではエコすごろく、太陽光グッズに興味津々の様子。さらに「あそびのコーナー」では、竹とんぼに挑戦し、「みんなで歌おう」コーナーも満喫した。

今後、パネルが入荷され次第、設置工事が本格化。同園の屋根に63枚のパネルが取り付けられ、総量で10・395^kWもの発電能力が可能となる。8月29日に点灯式が予定されており、完成した暁には、またみんなでお祝いをするという。